

南部少年野球連盟大会規定

1. 大会はトーナメント方式とし、1試合6イニングとする。ただし、3回を過ぎて10点、4回を過ぎて7点以上の差が生じた場合はコールドゲームとする。なお、決勝戦には適用しない。ホームベースは原則として大人用を使用する。
2. 試合時間が80分を経過した時は、新しい回に入らない。ただし、同点の場合は一死満塁の状態から4番打者（3塁1番打者、2塁2番打者、1塁3番打者）からタイブレークを行う。尚、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順を繰り返し、最大3回までタイブレークを行い、それでも決しない場合は抽選とする。
3. 降雨等により試合再開が不可能と審判が判断した場合、その試合が4回を過ぎて点差がある時は、リードしているチームの勝ちとする。後攻チームがリードしている場合、4回表終了時に試合成立とし、それ以外は再試合とする。
4. 試合会場への集合時間は、指定試合時間の30分前までとする。これに遅刻した場合は、担当役員及び対戦相手に不可抗力と認められない限り、遅刻チームは不戦敗とする。
5. 試合開始15分前までに、2通メンバー表を作成して審判に届けること。
6. 試合中の言動は、選手は少年らしく、応援団も節度ある言動態度を遵守すること。
7. 審判の判定には無条件に従うこと。ただし、監督のみが抗議、質問することができる。
8. コーチャーズボックスには、当日メンバー表に記された選手以外は立てない。
9. ベンチ入り人数は、原則として選手15名、監督コーチ3名、スコアラー2名以内とする。ただし、相手監督の許可を得て、選手の人数を増やすことができる。
10. ベンチは抽選番号若番を一塁側とする。
11. 投手は1日70球制を採用する。1回戦、2回戦までは相手チームのスコアラーが投球数をカウントし、審判に報告する。準々決勝からは各チームから1名ずつ出て、相手チームの投球を「投球数ボード」で数える。
12. ベース、ラインカーは試合設営チームが準備し、試合球は設営チームが回収する。
13. 大会使用球は内外ゴム製J号とし、各チーム2球ずつ供出のこと。
14. 攻守交代は全力疾走で行う。
15. 審判については、1回戦、2回戦は各チームから2名ずつ出し、球審は原則として試合設営チームが担当する。準々決勝は球審のみ役員が担当する。準決勝、決勝は球審、塁審とも役員が担当する。

以上の当連盟大会規定及び申し合わせ事項以外は、全日本軟式野球連盟・少年学童部ルールを適用する。